

民衆の声
ボイス

No.93

公明党 横浜市会ニュース

VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL671-3023 FAX681-2060

コロナ感染症対策で187億円の補正予算が実現しました

国でのコロナ対策第2次補正予算を受け、横浜市会でも約187億円の補正予算が成立しました。

感染の第2波に備えた万全の医療提供体制、横浜経済と市民生活を守る支援、学校再開や「新しい生活様式」の構築へ、集中的な審議を行い施策の充実を図りました。



《今回の定例会で決定した主な施策》

● 検査体制を強化

《ドライブスルー PCR 検査を14か所に拡大、身近な診療所および往診による検査も実施。抗原検査を含めた検査費用の無償化。》

● 「新しい生活様式」を支援

《中小事業者のテレワークの導入や感染拡大防止のための施設改修、機器購入へ補助金を支給。》

● 観光・MICEの回復へ

《市内観光・宿泊の促進へ旅行商品の割引や宿泊クーポンなど、販促プロモーションを実施。》

● 生活の困難に寄り添う

《ひとり親世帯への臨時特別給付金の支給、フードバンクを活用した食料提供、横浜市大学生への授業料減免など、経済的に困窮している方々を支援。自立支援の体制を強化。》

● 災害避難所の備蓄を強化

《アルコール消毒液、マスク、簡易間仕切り、段ボールベッド、体温計などを調達。》

● 妊産婦の支援を充実

《希望者全員にPCR検査の実施、特定不妊治療費助成の拡充、産後ヘルパーの利用費用の助成など。》

● 児童生徒の学びを支援

《全487校に非常勤講師、職員室業務アシスタントなどを追加配置。学校に応じて必要な感染防止資機材を追加購入。》



新型コロナウイルス感染症関連

《横浜市支援メニュー》

市民の
皆さまへ事業者の
皆さまへ

「性犯罪・性暴力対策の強化を求める意見書」を提出へ

佐々木さやか参院議員の国会質問をきっかけに2017年6月に110年ぶりに性犯罪に関する刑法が改正、厳罰化が図られました。

法改正時の附帯決議に定めた見直しの期限を迎えるにあたり、公明党横浜市議員団は関係団体からの要望を踏まえ、再犯防止や被害者支援、性暴力根絶に向けて、さらに踏み込んだ措置を求める意見書の提出をリードしました。

横浜市会として7月7日の本会議にて、全会一致で意見書が採択されました。



参院法務委員会で性犯罪の厳罰化を訴える
佐々木さやか参院議員(2017年6月)

市民の心身の健康増進へ

6月24日、リニューアルオープンした新横浜スケボー広場を訪問しました。スケートボードが東京2020オリンピック正式種目に採用されたことから、パーク型への改修を行ったものですが、アマチュアプレイヤーから強化選手も集い、「世界有数のパークに劣らないクオリティです」と評価も高く、オープン初日から賑わっています。



コロナ禍を超え賑わいの復興へ

6月6日、三浦のぶひろ参院議員とともに横浜・八景島シーパラダイスを訪問し、来場者の感染症対策、休業による雇用や運営への影響について意見交換を行いました。松田心副総支配人より「遠方からの集客が期待できない分、地元や近隣の皆さまに安心して楽しんで頂ける施設にします」と賑わいの復興への決意も伺いました。

効果的な施策展開で、大切な観光産業を支え盛り立てていきます。



横浜の音楽文化を護る

7月2日、一般財団法人横浜JAZZ協会の中川明理事長、ならびに市内でライブハウスを営む株式会社インセクトノイズの梶江茂起代表取締役らと懇談しました。

中川理事長は「1993年から続いている横浜ジャズプログラムナードについて、「コロナ下でジャズバンドの練習も十分にできず、これまで通りの開催が困難」と語り、横浜市の一層の支援に期待を寄せました。

また梶江代表取締役からは、公明党市議団の後押しで実現した、コロナ感染拡大により収入が激減した文化芸術団体への給付金支援について「とても有難い」と感謝の言葉を頂きました。西洋文化伝来の地・横浜の文化芸術を、さらに支援し護っていきます。



介護現場を守り、支える

7月7日、三浦のぶひろ参院議員とともに「コロナ下での介護現場の課題をめぐり、横浜市みなと介護福祉事業協同組合・日高淳理事長との意見交換を行いました。

席上、日高理事長より、公明党の申し入れにより、第2次補正予算に介護従事者への慰労金の支給をはじめ、事業の継続支援などが盛り込まれたことに感謝の言葉を頂きました。また、介護職員の地位向上や地域包括ケアシステムのさらなる充実などの要望も伺いました。



横浜新市庁舎が移転オープン



住所：〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10
 アクセス：みなとみらい線「馬車道駅」1C 出口直結
 JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩3分

踏切解消で利便性向上



遠山きよひこ議員らと相鉄線高架化事業の進捗を確認

7月3日、遠山きよひこ衆院議員、三浦のぶひろ参院議員とともに、相鉄線・星川駅（保土ヶ谷区）を訪問し、連続立体交差事業の進捗状況を視察しました。

「開かずの踏切」を解消し、地域交通の円滑化を図る同事業は、公明党が政府に働き掛けて実現したもので、1.9キロの高架化で9か所の踏切が解消されました。

遠山議員らは同日、再開発が進む二俣川駅（旭区）も視察しました。



皆さまの、いちばん近くで動く、働く。横浜市会公明党です。

2020年5月 新しい構成により議会がスタート



■ 団長
竹内 康洋（神奈川区）
 ● 政策・総務・財政委員会
 ● 大都市行財政制度特別委員会副委員長

■ 副団長
斉藤 伸一（保土ヶ谷区）
 ● 7・11青少年・教育委員会委員長
 ● 減災対策推進特別委員会

■ 副団長
望月 康弘（港北区）
 ● 建築・都市整備・道路委員会副委員長
 ● 新たな都市活力推進特別委員会
 ● 神奈川県後期高齢者医療広域連合議会議員

■ 政務調査会長
尾崎 太（鶴見区）
 ● 温暖化対策・環境創造・資源循環委員会委員長
 ● 大都市行財政制度特別委員会

■ 政務調査会副会長
行田 朝仁（青葉区）
 ● 水道・交通委員会
 ● 基地対策特別委員会
 ● 市会運営委員会副委員長

■ 政務調査会副会長
中島 光徳（戸塚区）
 ● 水道・交通委員会副委員長
 ● 減災対策推進特別委員会

■ 政務調査会副会長
安西 英俊（港南区）
 ● 健康福祉・医療委員会副委員長
 ● 郊外部再生・活性化特別委員会
 ● 市会運営委員会理事
 ● 神奈川県後期高齢者医療広域連合議会議員

■ 監査委員
高橋 正治（緑区）
 ● 国際・経済・港湾委員会
 ● 大都市行財政制度特別委員会

■ 市民・文化観光・消防委員会
仁田 昌寿（南区）
 ● 健康づくり・スポーツ推進特別委員会

■ 建築・都市整備・道路委員会
加藤 広人（磯子区）
 ● 基地対策特別委員会副委員長

■ 政策・総務・財政委員会副委員長
源波 正保（泉区）
 ● 基地対策特別委員会

■ 市民・文化観光・消防委員会
福島 直子（中区）
 ● 新たな都市活力推進特別委員会

■ ことば青少年教育委員会
斎藤 真二（都筑区）
 ● 健康づくり・スポーツ推進特別委員会
 ● 神奈川県内広域水道企業団議会議員

■ 温暖化対策・環境創造・資源循環委員会
竹野内 猛（金沢区）
 ● 健康づくり・スポーツ推進特別委員会委員長
 ● 議云広報会議

■ 健康福祉・医療委員会
木内 秀一（旭区）
 ● 減災対策推進特別委員会
 ● 議云広報会議

■ 国際・経済・港湾委員会
久保 和弘（瀬谷区）
 ● 郊外部再生・活性化特別委員会
 ● 市会運営委員会

令和2年 第2回定例会における論戦より

議案関連質疑

高橋 正治（緑区選出）

6月23日の本会議ではコロナ感染症対策の第2次補正予算案をめぐり、市長・教育長へ以下の質疑や要望を行いました。

新たなライフスタイルへの転換について

（答弁）中小企業への設備投資への支援や、テレワーク導入費用に対する助成の大幅拡充などを盛り込み、「新しい生活様式」の定着に取り組みます。

感染症対策を踏まえた地域防災訓練について

（答弁）避難所における感染防止を念頭においた訓練の実施について、拠点の運営委員会に対して働きかけるとともに、効果的な訓練となるよう区局が連携して支援します。

横浜市立大学の学生支援事業について

（答弁）コロナの影響による経済的な理由で学業を諦めることなく、安心して学び続けられるように、国の修学支援新制度の対象とならない学生に対して、市大独自の減免制度の要件を拡充し支援します。

横浜経済の回復について

（答弁）新たな設備投資助成制度を創設します。実質無利子融資や商店街への一時金、新たな助成制度などをご利用いただくことで感染予防を図りつつ経済活動を回復軌道に乗せて一刻も早く新たな日常を創り出していきます。

給食が実施されない中でのフードロスについて

（答弁）学校で保有する乾物や調味料等の物資について、給食中止の長期化に伴い賞味期限が近づいているケースがありました。各校の在庫状況に応じて、200校を超える学校でフードバンクやこども食堂等への食材提供を行い、フードロスを削減しました。

一般質問

行田 朝仁（青葉区選出）

コロナ禍でも安心の介護へ

介護施設等の利用者・職員が感染した場合のサービス提供体制、職員の自宅待機など、様々な問題が初めての経験で「判断に迷う」との声が多く聞かれました。そこで、判断基準や施設等の現状にあった対策の提示、他施設への職員応援体制など、市の積極的な関わりを要望しました。

市長より「安心して頂けるよう、具体的に示し、きめ細かく取り組む」との答弁がありました。最前線の方々に感謝しながら、市民の安全安心への取組みを進めます。

教育現場のICT環境整備

市立学校では今年度末までに全生徒に1人1端末の整備「GIGAスクール構想」を進めています。その前に第2波で休業になった場合のICTを活用した教育環境の保証、また教職員のオンライン学習のための研修等について質問しました。

教育長からは「モバイルルーター、PC貸出を準備し、教員研修と家庭学習の充実に取組む」と答弁がありました。これらは不登校の子どもたちの学びの保障にもつながるものです。

夏の暑さ対策

コロナ感染拡大防止のため窓を開けて走行する市営バス。地下鉄では、乗員乗客への二層の暑さ対策が必要です。保守点検の現場作業、ごみ収集作業員などへの暑さ対策の徹底と併せて要望しました。

各担当局からは適切な対応を図る旨の答弁があり、特に給食調理員の暑さ対策について、調理室へのスポットクーラー増設、調理員への冷感ベスト支給など、具体的な取り組みも示されました。



横浜市コールセンター ～便利な暮らしの情報ガイド～

各種手続き、施設、イベントなどの市政、生活情報など「知りたい・聞きたい」に答えます。

Tel.045-664-2525 Fax.045-664-2828

●時間/8:00～21:00(土・日・祝日を含む毎日) ●Eメール/callcenter@city.yokohama.jp

急な病気やけがで、救急車を呼ぶか、医療機関を受診するか迷ったら…

●電話で相談●

#7119

または、045-232-7119

年中無休/24時間対応

横浜市救急受診ガイド

★Webで判断★
救急受診ガイド



検索